

五小葉ノ葉ヲ出スコト疾ク數度之レヲ目撃シ私ノ手許ニ其標品ガ現存スル、又みつばうつぎ (*Staphylea Bumalda* Sieb. et Zucc.) モ強壯ナル枝上ニハ四—五小葉ノ葉ヲ出ス事ヲ時々見受ケルガ之レハ決シテ普通ノみつばうつぎト異ツタ品デハナイ事ヲ斷言シオク、中ニハ偶ニ菲弱ナ氣條ニモ同様ソレガ現ハレル事ガアル、又からたち、れんげうノ葉ニモ時ニ五小葉、ひめうこぎ短枝ノ葉ニハ偶ニ七—六小葉ノモノガ現ハレル、又にはとこノ葉モ強壯ナ氣條ニ出ル大形葉ニハ多少再羽狀ニ傾イタモノガ見ラル、

○斷枝片葉 (其四十二)

牧野富太郎

●いちびノ事ニ就テ再ビ述ベル

本誌第六卷第八號ノ『斷枝片葉』欄デ聊カいちびノ事ニ就テ記シテ置イタガ頃日紹述先生即チ伊藤長胤ノ著『秉燭譚』今カラ百六十六年前
寶曆十年ニ刻成卷ノ四ニ「苧麻ノ事」ト題シテ下ノ記事ガアル即チ「土佐ノ儒宦緒方宗哲談ズ國ニイチビト云モノアリ其狀如^レ麻ソノ皮舟ノ纜ニツクルベシイチビ繩ト云テ海人尤コレヲ貴ブ其種麻稗ノゴトク甚白色ナリ火ヲ炷スレバ火繩トスベシ本草ニノスル苧麻ナリト因テ本草ヲ考ニ果シテソノ通りナリ中庸綢衣ノ章ノ大ニ見レバ又作^レ纜ニテ即コノ物ナリシカレバ麻ノ一種トミエタリ後ニ人ノ話ヲ聞ケバ土州ニカギラズ海南ノ諸州ニハイチビ繩ヲ用ユトマタ藻鹽草ヲ檢スレバ苧麻トアリテイチビト訓ズ昔ノ人モヨクワキマヘシレルニコソ」デアアル、今之レヲ讀ムト同名異物ノ二ツガ混淆シ土佐ノいちびモ苧麻ノいちびト同一物ト見做サレテ居ル、先キニ書イタいちびノ條下ニ辯ジテ置イタ通り土佐デいちびト云フノハ黃麻即チつなそノコトデ苧麻ノいちびデハナイ畢竟其纖維ノ用途、形質ナドモ似テ居ルカラカタガタ此混淆ヲ來タシタモノデ前述『秉燭譚』ノ記事ハ事實ヲ誤ツテ居ル事ニ歸着スル、昔カラ盡ク書ヲ信ズレバ書ナキニ如カズト云ツテ居ルノハ書物ニモ上ノ様ナ愆ツタ記事ガアルカラデアアル

●火繩

大槻文彦博士ノ『言海』

斷枝片葉（其四十二）

ヲ見ルトひなはハ「竹ノ肉ヲ叩キテ繩トシタルモノ火ヲ點ジテ永ク消エズ、鳥銃ナドニ用キル」トアルガ其通
リデアル、然カシ此コニ何ノ竹ト云フ事ガうたつて無イガ其レナラドンナ竹デモヨイカト云フト決シテサウデ
ハナク之レハほうらいちく（一名どうだけ、學名ハ *Bambusa nana* Roxb. var. *normalis* MARTINO.）ヲ用ウル
ノデアル、此竹ハ本來ハ我邦ニ自生ノ者デハナク昔多分支那カ琉球カカラ傳ヘタモノデ今ハ四國九州ニハ普通
ニ繁茂シ東ハ駿州邊マデモ來テ居ル、其稈ノ大ナルモノハ徑凡ソ一寸程モアツテ高サモ相當ニ伸ンデ居リ稈ノ
節ハ隆クナク節間ハ頗ル長イ、稈ノ肉ハ割合ニ硬クナイノデ此肉ノ部ヲタ、イテ柔カニシ之レヲ綯フテ細長キ
繩トシ其レヲ直徑三寸位ノ輪トナシ此コニ火繩ガ出來上ルノデアル、色ハ帶黃白色デ其繩ノ端ハ火ヲ點スレバ
能ク久シク保ツモノデアル、多ク舊製ノ鐵砲ひなはづ、ニ用キタモノダガ今日デハ此火繩ヲ一向ニ見ナイ、私
等ノ子供ノ時代ニハ普通ニ在ッタモノダガ今時ノ人ハ之レヲ知ラス者ガ多カラウ、處ニヨルト山間ニ偶マひの
きノ皮ニテ製シタ火繩ガアルガ此レハ今日デモ見ラル、 ●ひめぐるみトおにぐるみ ひめぐるみトお
にぐるみハ其果實ノ核ノ形狀ハ全然相異ナリ誰ガ見テモ同種トハ思ヘナイノデ一流ノ分類學者デモ之レヲ別種
ト認メひめぐるみヲ *Juglans cordiformis* MAXIM. ト稱シタ然シ私ハ此說ニ反對シテひめぐるみヲおにぐるみ
ノ變種ト認メ乃チ其學名ヲ *J. Sieboldiana* var. *cordiformis* MARTINO. ト訂正シタ、誰レデモ右兩者同型ノ枝
葉等ノ上ニ見レバ必ズ私ト同意見ヲ抱クデアラウト思フ

○正 誤

（歐文ノ正誤ハ其欄内ヘ掲ゲテアル）

●六卷一號 ○3頁十行 働かニ働らニ ○同二號 ○(47)頁、初行 組合セニ組合セ ●同五號 (34)頁、圖下 蘭山ノ書ケルニ蘭山ノ畫ケル ○
取消ス ○(135)頁、末ヨリ三行 第四ニ第五 ○(136)頁、末ヨリ三行 四件ニ五件 ●同七號 ○表紙 蘭山ノ書ケルニ蘭山ノ畫ケル ○
同 世界ニ世界ニ ○同 二三ノ菊科植物ノ下ヘ(圖入)ヲ入ル ○(312)頁、末ヨリ五行 引用シアルニ引用シテアル ○(330)頁九行
どんだんニどうだん ●同十一號 ○(333)頁、末ヨリ六行 笑顔先生ノハニ笑顔ノ先生ハ